全国講演会（釧路 2008）の開催にあたって

釧路 2008 実行委員長
奈良林 直

Message of the Chairman at the Opening of Kushiro 2008

Tadashi NARABAYASHI

この度、可視化情報学会全国講演会を釧路市にて開催する運びとなりましたこと、誠に光榮の至りに存じます。釧路市は、釧路湿原国立公園を有し、夏季は南北からの暖気と冷気がぶつかるため、真夏でも 20 度を超えることはなく、日本で年間平均気温が一番低いところです。また、釧路付近の太平洋には寒流の千島海流が流れ、夏でも水温が低く、そこに暖かい南風が流れ込むと気温と水温の差で霧が発生します。霧の発生する日は年間 100 日以上あり、夏の海霧の発生が多いのが特徴です。また、日本最大の釧路湿原は、今から約 6 千年前、気温の上昇によって海面がもり上がった大地で、かつては海だったと推測されています。

釧路湿原は開拓時代には不毛な土地であり、高度成長期には大規模な開発計画が持ち上がったこともありました。しかし、次第に貴重な生態系の残っている自然環境として認知され始め、1980（昭和 55）年には日本初のラムサール条約指定湿地に指定されました。秋には放射冷却による放射霧、冬の冷え込んだ朝や夜には川から発生する蒸気霧などが発生し、湿原を深い霧で包みます。こうした霧が、冷涼な気候を好む湿原の動植物を守り育ててきました。また、水田に最適のはずの湿原が霧によって稲作ができず、水田開発を免れることができました。

講演会初日に行われる特別講演会では、流氷研究の第一人者である青田昌秋氏に「流氷は青から白へ変わる地球の温度計」とまた、2 日目は大竹真紀子氏に『月周回衛星「かぐや」の高精細映像と各種観測ミッションについて』というタイトルで比較的可なりやすい講演をいただくことになっております。ご期待下さい。

この度の全国講演会では、企画した 9 つの OS（「流れを観る」、「光で観る」、「超音波と電子・放射線で観る」、「熱とエネルギーを観る」、「機械と物質と安全を診る」、「地球と宇宙の過去・現在・未来を観る」、「人体と細胞・ウイルスを診る」、「安心と情報を見る」、「科学・芸術とスポーツを観て、学生の未来を創る」、「航空宇宙の流れを視きわめる」、「環境を視きわめる」）に、合計 96 件のご講演が予定されています。活発な議論と情報交換が行われることを期待いたします。講演会場では例年のごとく機器展示、資料展示も行っていますので、精々ご活用下さい。懇親会は釧路フィッシャーメンズ ワーフ MOO にて行います。港町くしろならではの新鮮な海鮮料理をお楽しみ下さい。

最後になりましたが、この全国講演会を開催に漕ぎ着けたのはひとえに実行委員会委員（下記）の並々ならぬご尽力によるものです。また前回と前々回の全国講演会（それぞれ岐阜大学、神戸大学）の資料を大いに参考にさせていただきました。関係各位には篤く御礼申し上げます。

全国講演会（釧路 2008）実行委員会委員

岡本孝司(東大)、天元 宏、佐川 正人、小杉 淳、池田 裕一、渡辺 聖司、佐藤慎悟(釧路高専)
金子純一、首藤登志夫、村井祐一、大島伸行、小崎完、渡辺精一、中村祐二、渡部正夫、東藤正浩(北大)
奈良林直(委員長・北大)、高木敏幸(副委員長・釧路高専)、柳川 和徳(幹事・釧路高専)